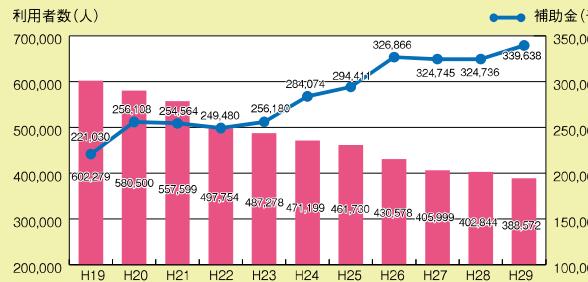




■市の路線バスの輸送人員・補助金の推移



※負のスパイラル
↑ 利用者減少 ↓ 運賃収入減少
↑ 不便 ↓ 路線・本数減少

せざるを得ないこともあります。
平成21年に62系統あった路線は、
現在30系統まで減少しています。

みんなでつくり守る 「公共交通」



皆さん普段、どのような方法で移動していますか？公共交通は使っていますか？公共交通は、通勤通学だけでなく高齢者の通院や買い物などに欠かせない移動手段です。今はマイカーがあるので必要ないと思っている人も多いと思います。

しかし、いつまでも自動車を運転できるとは限りません。自分や家族が運転できなくなったらどうしますか。

今号では、地域の移動手段を確保する取り組みを紹介します。

路線バスの現状

市内には路線バス、旅客船、航空機などの公共交通機関のほかにも、病院バスや福祉バス、スクールバスなど利用者を限定した交通機関も運行（左地図参照）しています。その中でも市民の主な移動手段は路線バスです。

路線バスの利用者は、人口減少やマイカー普及などにより年々減少しています。利用者が減少すると運賃収入も減少するため、路線の減便や廃止などが行われます。それにより不便さが増し、さらなる利用者の減少につながるという悪循環（※負のスパイラル）に陥ってしまいます。

しかし、本市は県内で一番面積が広いため路線維持が難しく、利用者が少ない路線は減便や廃止をいます。

市内を運行する交通機関



市が取り組む公共交通対策

今後、路線バスだけでは地域の交通を支えていくことは困難になります。市は、昨年度「天草市地域公共交通網形成計画」を策定。路線バスのほか乗合型のタクシーやコミュニティバスの導入、既存のスクールバスなどへの相乗りなど、さまざまな交通資源を効率的・効果的に組み合わせて、持続可能な地域公共交通を確保する取り組みを行います。

地域の実情に合った公共交通の導入

持続可能な公共交通は行政だけではつくれません。地域住民の要望に合わせなければ使い勝手が悪く、利用してもらえないからです。地域住民と交通事業者、行政が連携・協議し、その地域にあった移動手段をつくり上げていくことが重要です。

交通不便地域に住む地域住民からの要望を受け、協議を重ね本格運行を始めた2つの公共交通を紹介します。

買物支援タクシー（予約制乗合タクシー）

本町宇土区の住民から、普段の買い物などが不便だと話を受け協議を重ね、平成29年2月から試験的に運行を開始。継続的に利用されているため平成30年4月から本格運行。



◎巡回運行・乗合◎
本町(宇土区)×本渡市街地
天草市買物支援タクシー

- 対象者 本町宇土区住民のうち市に利用者登録を行った人
- 運行日数 月2日、1日1往復
- 運行日 運行日は利用者どうしの話し合いで決定
- 運行区間 自宅から本渡市街地の目的地
- 利用方法 タクシー事業者へ電話予約（前日の16時まで）
- 利用時間 9時30分から16時30分
- 利用料金 片道1人700円

一番近いバス停は自宅から約1・3km。若いときは15分で歩いたが、今は30分かかることもあります。普段の移動手段は、バスとタクシー。タクシーは市街地まで片道3,500円と高額なため、用事はできるだけまとめて1度で済ませるようにしていた。マイカーをあれば年々バス今まで歩くのも困難になってきた。そのため、バスを利用する時は重いものはできるだけ買わないようにしているのです。

同タクシー導入の協議をしているとき、「本当に実現するのか」「他の人と時間や行動を合わせられるのか」と不安があつたと振り返ります。

市役所から山間部に向かい車で走ること約25分。田園から森林風景へと変わり到着したのは本町宇土地区。そこで暮らす河上千代枝さんは、平成29年2月から買物支援タクシーを利用している。



①タクシーに乗り込む河上さん②河上さんが利用するバス停
③平日1日4本の時刻表

頼りにしている移動手段

週に1度は自宅近くまで移動販売車が来るが、欲しいものがないこともありますため市街地まで月2回、同タクシーを利用して買い物に出かけるという河上さん。「重い米などを買ってもタクシーなら家の前で降りることができますので、今はなくてはならない移動手段となり頼みにくくなつたと話していました。

新和町巡回バス（コミュニティバス）

新和町の大宮地・碇石・上大多尾地区などの住民からの要望を受け、平成28年4月から試験的に運行を開始。平成29年度に運行路線が重複していた新和病院バスと統合し、運行範囲を新和町全域に拡大し、本格運行（新和病院バスは廃止し、効率的効果的な交通網を整備）。

- 運行日 月～金曜日
- 料金 一律150円
- 路線 5路線で1日3便（全便、市役所新和支所と新和病院に停車）



今年の正月に免許を返納した新和町に住む船元さん。9月で90歳となる船元さんは30歳のころ免許を取得し運転歴は60年。免許の返納は自分で判断したとのこと。テレビなどで目にするようになつた高齢者による事故の報道のほか、自分も運転中に「バツ」と思ったことや視野が狭くなつてきたため返納したと話します。家族から運転を控えてほしいと言つた話は無かつたが、返納した後は「安心した」と言うので、心配していたんだなと思つたそう。免許を返納するときにまず考えたことは、車に代わる移動手段の確保。外出する機会が減り、引きこもるのではないかと不安になつたからとのこと。

運動不足の解消にもと思い、自転車を購入し練習したと笑顔で話す船元さん。でも、体力も衰えており、遠方となると自転車では難しいなと思っていたところ、巡回バスが路線再編で、自宅前も通る

ようになつた。今は月1回の通院以外にも買い物や友人宅を訪問する時に利用している。このバスで新和町内どこへでも行けるので助かると話していました。



①免許返納の話をする船元さん②買い物の帰りに巡回バスを利用

バスで社会と繋がる

**公共交通はみんなでつくるもの。
住民、交通事業者、行政の連携・協議が大切です。**





崎津編

祝！世界遺産登録
路線バスを使ったプチたびで崎津集落を散策

今、バス旅/船旅がアツい!
あまくさの人気スポットを
公共交通でめぐろう☆

公共交通de あまくさ プチたび

天草には、路線バス、船（定期船・海上タクシー）、天草エアラインなどたくさんの公共交通があります。普段あまり乗らないけど乗ってみると何か新しい発見があるかもしれない。「公共交通」で行く「乗って楽しい、行って楽しい」プチたびを紹介します！

他の「プチたび」は
市HPをご覧ください。



移動手段を確保すること
私たちにできること

市を取り組みの目的は、「いろんな交通機関を有効に活用し、マイカーがなくとも、最低限移動できる手段を将来にわざって確保すること」です。それは行政だけではできません。皆さんにも担つていただきたい役割があります。

1つ目は、「公共交通を使うこと」。公共交通を維持するには、利用者がいてこそ。今回紹介したプチたびはそのきっかけづくりです。公共交通を使うことで、地域の交通を見つめ直すきっかけにもなります。

2つ目は、「普段から地域内で交通について話すこと」。移動に困っている人には何をすべきかなどの意見をまとめておくことが重要です。自分たちでできることはできない、自分たちには何ができるのか（自助・共助）、移動手段を確保するためには何をすべきかなどを、事業者や行政と連携し、協議を重ね、その地域にあった新たな公共交通と共につくり上げていく、「協働」体制が必要となります。

人口減少、少子高齢化は深刻です。地域の交通を地域住民自ら考えるときが、まさに来ています。

【問い合わせ先】

本庁・地域政策課（天草宝島国際交流会館ポルト内）☎②6000

西海岸の最高の眺めと源泉かけ流しの温泉を満喫しよう♪



下田温泉編